



2023年がスタートして半月が経ちました。本校では、1月10日(火)に3学期が始まりました。今が1年で最も寒い時期ですが、46日間の3学期、一日一日を大切にしつつ、そして次年度のことも意識しながら、中学校生活を送っている生徒たちの姿を見ることができます。

この冬は、インフルエンザの流行も心配されています。新型コロナウイルス感染拡大も引き続き防ぎながら、元気に中学校生活を送ることができるように、日々の健康チェックのご協力をよろしくお願いいたします。



3学期初日の登校の様子

「冬来たりなば春遠からじ」～3学期始業式 校長講話～

これは何でしょう。皆さんにとって、身近なものです。

パンジー、ビオラの種です。大きい花の方がパンジー、小ぶりの花がビオラです。春から夏にかけて、エントランス前でたくさん咲いていました。園芸委員さんが、休み時間や放課後などに水やりをしてくれていたお陰で、暑い時期も枯れずにずっと長く咲いていました。



美術の授業では、1年次に「見つめて描く」という題材で、描く人の個性も表現されたパンジーやビオラの花を描きました。美術の授業での光景です。そして、毎年松輝祭では、エントランスに色とりどりの花が再び満開になったかのように、絵画作品が展示され、大変豊かな空間になります。生徒の皆さんが日々の授業を頑張っていることが伝わってくる、私の好きな光景の一つです。

さて、現在、パンジー、ビオラはどうなっているかというところ…。来年度へ向けて、また新たな命が生まれています。上田市の営農センターというところで発芽させてもらった苗を、10月に依田先生が学校へ運んでいます。そして、屋上や、渡り廊下の日だまりの中で、小さな小さな苗が枯れてしまわないように、世話をしています。そして、園芸委員会へと受け渡され、園芸委員会顧問の竹花先生が10組前の日だまりへ移動しています。苗を見てください。とっても小さな苗です。でも、花が開いています。寒い冬が始まった12月にも関わらず、こんなにたくさんの花が咲きました。そして、1月。プランターに移植された苗は、雪に埋もれています。けれど、ちゃんと生きています。葉は青く、つぼみが膨らんでいます。厳しい寒さの中でも、自分の根を下へ横へと伸ばして、生きています。毎年、私たちの身近にある花々が、こうやって生きていることを今日は皆さんに伝えたいと思いました。花は、春に突然咲くのではないのです。



「冬来たりなば、春遠からじ」という言葉があります。古い日本の言葉が使われていますが、イギリスの詩人シェリーの言葉です。「寒くて厳しい冬が来たと言うことは、温かい春も遠くない。すぐそこに来ている」ということです。辛い時期も乗り越えれば、やがて春のように温かな時期が来るということだと思います。特に、これから受験に向かう3年生へ贈りたい言葉です。

さて、新年元旦はどのように迎えましたか。私は、2学期終業式に皆さんへ「行動をしよう。変えてみよう」とお話をしたので、「まずは自分が…」と思い、初日の出を見に出かけました。どこへ行こうかなと迷ったのですが、やはり学校で拝みたいと思って、学校に来て初日の出を待ちました。そして、一年の目標や願いを胸に思い浮かべて、初日の出を拝みました。

こちらは、剣道部の皆さんの目標です。1学期に書いたものですが、柔剣道場に入って左側の壁に掲げられています。そして、この言葉にあるように、見事女子チームの皆さんが東信大会優勝という目標を達成しました。皆さんも自分で決めた目標を言葉にしたり文字にして掲げたりして毎日の励みにしてほしいと思います。



新年に3年生の教室を覗きました。どのクラスも整然として、大変すがすがしい教室でした。静かに、生徒の皆さんが登校してくるのを待っているそんな教室でした。3学期、この第一中学校で1年生も2年生も3年生もみんな元気に、自分の目標に向かって進んでいきたいですね。共に頑張りましょう。

「心に燃りをかける」～2学期終業式 校長講話～

これを見てください。これは何でしょう。そうです。1本の糸です。糸を観察すると、表面には、縞々の模様があったり、更に分解でき、細かく細いものが集まって出来上がっていることがわかります。糸を拡大した写真を見てみましょう。糸よりもっと細いものが何本も集まっていることがわかりますね。それらを分解していくと、更にふわふわの細かい綿のような状態になります。

1本の糸です。

よ～く 観察してみましょう

これらの糸のものは「繊維」というものです。繊維が集まって、糸になるわけです。何本、何十本もの細い繊維が、集まってねじられて糸になっている様子が見えます。ふわふわとした柔らかい繊維は、弱いものですが、こうやって集まった糸は繊維よりもずっと強くなります。

ちょっと実験をしてみます。本を何冊か持ってきましたが、この細い糸で持ち上げられるかやってみましょう。細い糸も結構強いことがお分かりいただけましたか。こうやって集まった糸は、繊維よりも強く丈夫になるのです。

糸はどうして強く丈夫になるのでしょうか。それは、軽くふわふわの繊維が、何本も集められ、ねじられるからです。繊維を集めて、ねじって糸にすることを「燃る(よる)」といいます。あまり聞かない言葉かもしれませんが、「腕に燃りをかけて…」とも言います。その燃りと同じです。糸は、燃ることによって強く丈夫になるのです。



今日、このお話をしたのは、私たちの心も同じだと思うからです。私たちの心の中には、願いという、最初は繊維のように軽いフワフワとした柔らかな気持ちがあります。その願いを実現させようとするとき、フワフワとしたもののままでは、軽くどこかに飛んで行ってしまいかもありません。そうすると、願いは実現できません。だから、心を一本の糸のようにまっすぐな強いものに変えていかないとはいけません。

心に燃りをかける…ということです。では、心に燃りをかけるにはどうしたらいいのでしょうか。それは、特別なことではありません。

ちょっと面倒だな、大変だな、と思うことを丁寧に確実に行動に変えて、自分の心を強くするということです。皆さんが日々の学校生活の中で、心に燃りをかけて頑張ってきた姿を紹介します。登校する皆さんの姿です。雨の日も風の日も、坂道を登って自分の足で登校する、学校生活の基本だと思います。一中は丘の上にあります。通学路は坂道です。登校するときは上り坂です。そんな坂道を上って、毎日自分の足で登校する…自然と心が強くなります。授業では、音楽の授業で、大きな声で歌うこと、自ら手を挙げて参加すること、難しい問題に黙々と取り組むこと、そして、友と共に学び合うこと。教科担任の先生を交え、なぜ、そうなるのかを語り合います。どの姿も、自らを表現し、考え合い、学び合っています。受け身ではなく、自ら参加しています。また、生徒会活動では、休み時間や放課後など、自由に過ごせる自分の時間を活動に費やします。園芸委員の皆さんの水やり、福祉収集委員の皆さんによる、早朝の収集活動、男子も女子も力を合わせて共に活動します。そして、清掃する姿です。膝をついて、力を込めて床を磨きます。下履きで歩く場所、昇降口も雑巾がけをします。北風の吹く寒い石の廊下も雑巾がけをしています。自分の肩幅より広く、右へ、左へと雑巾を動かします。広い場所も、少ない人数で清掃しています。重い机も引きずらず、持ち上げて運びます。



あらたな年を迎えるにあたって、自分の心に燃りをかけ、心が強くなる行動を意識してみませんか。新年は、新たな願いが心に生まれる時です。3年生は受験を前に、自分と勝負をする時でもあります。自分の心を、行動につなげてみましょう。



最後に、アメリカの心理学者 ウィリアム・ジェームズさんの言葉を紹介합니다。

心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。

何かを変えていくには、目の前の当たり前の中の自分を変えていくことなのかなと思います。心が変わらなくても、行動を変えることによって、自分が変わっていくこともあると思います。短い冬休みですが、来年につながる有意義なお休みになるようにと願いながら、お話をしました。

